

報告2

渋谷区障害者福祉課との懇談会

私たちの地元渋谷区では、今年の4月から、「渋谷区障害福祉推進計画2018年度～2020年度」(第6次渋谷区障害者保健福祉計画/第5期渋谷区障害福祉計画/第1期渋谷区障害児福祉計画)がスタートしています。2016年の秋から作成作業がスタート、1年以上の期間をかけ、自立支援協議会福祉計画部会が諮問機関となって意見交換会、アンケートなど、様々な声を集めながら議論を重ねてきました。そして今年3月に渋谷区に答申をし、それらをほぼ網羅する形で策定されたのが今回の福祉計画です。山積する課題を官民がひとつになって議論し、共にその解決方法を探ってきたと言う流れの中、行政と民間の私たちが今までになくフラットなパートナーシップを構築することが出来たと思っています。

ぱれっとでは、多岐に渡る福祉計画の中で、特に私たちに深く関係していることを中心に学ぶため、去る8月2日(木)に渋谷区障害者福祉課長を始め、区の職員4名を招いて、ぱれっと親の会との懇談会を開催しました。

●当日の様子

冒頭、原信吉障害者福祉課長から、計画の重点施策、グループホーム新設、基幹相談支援センター開設など、これから3年間の具体的な動きについて改めて説明がありました。それぞれの事業をどこが担うのか、今どこまで進んでいるのか、など具体的な説明に参加者は皆真剣に聞き入っていました。中でも長年サービスが提供されてきた「緊急介護人※」の制度については、

個々の情報共有に大きな差があり、改めて発信、共有の重要性を区の方でも私たちの側でもお互いに認識しました。

●当日の感想から(抜粋)

- ・災害や万一の緊急時の為には、今あるホームでもエクストラベッド(補助ベッド)のようなものを設置し、寝泊まりできる様な、普段は一人でも緊急時二人で寝られるような形にできると安心感が増すように思います。
- ・長年要望していたことが少しずつ実現していることを実感して、心強く、嬉しく思いました。私たち親としては、施設やサービスを大いに活用し、子どもたちにとってどうなのか、きちんと声を上げていくことが大切だと思いました。そしてそこに携わる人材、事業所、そこが一番重要なことだと思います。
- ・保護者の緊急時の話が出ましたが、誰、またはどこに子どもを預けるかなどの支援内容については、日頃からケアプランなどに情報を組み込んで準備し、必要があるときにすぐに利用できるようなると良いです。また、「切れ目のない支援」は本人や家族にとっては理想ですが、支えて下さる支援者の育成、人材確保も重要な課題だと思っています。

●まとめ

今渋谷区はこれまでになく、官民の共働が進んでいると感じています。課題を共有し、お互いの役割を認識しつつ共に考え、変えていく。今回の懇談会でもそういった姿勢を感じました。今後の大きな課題は、感想にもある通り「どう人材を集めるか」だと思います。ご多忙の中ご協力いただいた障害者福祉課の皆様、ありがとうございました。(事務局長 南山達郎)

※緊急介護人…在宅の身体障害者、知的障害者を日常的に介護している家族が、一時的な病気や冠婚葬祭などの緊急な理由で介護ができない状況にあるとき、家族に代わる介護人(本人推薦による)を派遣する制度。